

実用新案登録願(B) 後記号なし

昭和47年3月8日

特許庁長官 井 土 武 久 殿

- 1. 考案の名称 乾電池を用いた燭火

東京都港区新橋 5 丁目 3 6 番 1 1 号 作 所 富士電気化学株式会社 内 氏 名 土 田 敬 (ほか 3 名

3. 実用新案登録出願人

定",亦 東京都港区新橋 5 丁目 3 6 番 1 1 号 定", 有 富土電気化学株式会社 (国稿) 代表取締役 杉 田 忠 嗣

4. 代 理 人 〒104

住 所 東京都中央区銀座8丁目12番15号

全国燃料会館和2号於7099室

電話東京03(543)0036番(代表)

氏 名 (6704) 弁理士 尾 股

受達(ほか)の

5. 添付書類の目録

 (1)
 明細書
 1 通

 (2)
 図 面 1 通

(3) 願書副本 1 通 48-106181-01

(4) 委任状 147 028407

公開実用 昭和48 到106181

明

細

書

- 1 考案の名称 乾電池を用いた燭火
- 2. 実用新案請求の範囲

電池ケース1の下端をカールし、底板3を内部に配置し、その上にソケット7と電気的に結構した乾電池4を挿入し、電池ケース1上3をカールした後燭火に似せたガラス球を豆町球6をソケット7に装着するか又は透明場にス球の豆電球6をソケット7に装着し、蠟燭に似せたホヤ2をかぶせた乾電池を用いた燭火。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、災害時又は停電時、寺院等の読経、燈籠流し等に使用される蠟燭の代りに乾電池と豆電球を組合せて取扱いが簡便で火災等に対して安全な燭火に関するものである。

従来、この種の蠟燭は脂肪酸と高級アルコールのエステルを主成分とし、中心に綿の芯を入れて円柱形にしたものが販売され使用されてきた。 48-1061

48-106181-02

飽用にほしては、マッチ等で芯に点火して火災がおこらないように固定して使用する必要があり、文たほが吹けば消えるという欠点を有しているため、使用時には細心の注意をする必要があつた。文た夏の高温時期には蜒が軟かくなり保存中に変形するという欠点も有していた。

本考録は以上のような欠点を除去した乾暖池を用いた灯火に関するもので、取扱いが簡便で火災等に対して安全な灯火を提供することを目的とする。

以下本海粱の一段施例を説明する。

ット 7 に半田付けし、ソケットと共に電池ケース上端をカールする。

大路 医阿根廷氏

なお、燭火に似せたホヤを豆電球にかぶせる 代りに燭火に似せたガラス球を有する豆電球を 使用して燭火の感じをだしてもよい。

以上の説明から明らかなように本考案は、乾電池を電源とし豆電球を点灯しているため、従来の蝋燭のような火災等の心配はなく、安全な燭火を提供するものであり、また風によつて消えるとか水分等によつて消えるということもな

い。豆鼠球のガラス球及び豆鼠球にかぶさつているホヤの形状、彩色を適当に変えることによって災害時の非常灯、停鼠時の照明に使用でき、全た寺院等の既経、燈籠流しの蠟烟の代用にできる等奥用的価値の大なるものである。

4. 図面の簡単な説明

オ1図は本考案の乾電池を用いた 烟火の正面図、オ2図は断面図である。

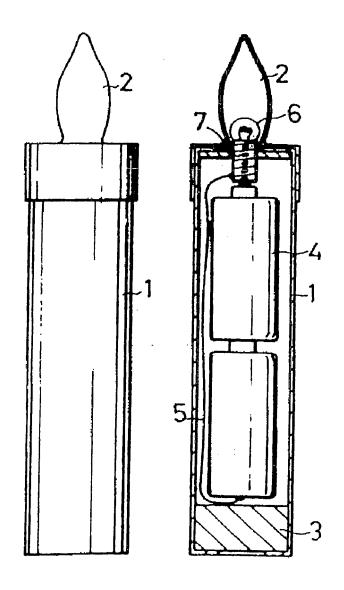
1 … 電池ケース、2 … ホヤ、3 … 底板、4 … 電池、5 … 結線を示す、6 … 豆甸球、7 … ソケット。

突用新浆登録出願人 窗土 電気化学株式会社

代 理 人 尾 股 行, 雄

代 理 人 荒 木 友 乏 助

第 1 図 第 2 図



发用新菜登録出願人 富士電気化学株式会社 代理人 尾 版 行 雄 代理人 荒木友之助 6. 前 記以外 の考案者、代理人

氏名 闘 富 幸 雄

住所 同 所

氏名 茁 苯 落 辛

(2) 代 理 人

住所 東京都中央区銀座8丁目12番15号

全国燃料会館 709号室

氏名 (5664) 弁理士 荒 木 友之 助

THIS PAGE BLANK (USPTO)